

講義名	地域ブランド論			授業形態	
担当教員	栗田 真樹	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

地域ブランドの概念的枠組みをはじめ、従来のものづくりによる地域ブランドに因わず多様な視点から地域ブランドを考察する。前半は、地域ブランドの概念や企業ブランドと地域ブランドの相違、地域ブランド政策などについて学習する。後半は、地域ブランドと地方創生や地域ブランドと観光まちづくりなどについて具体的事例を交えて学習する。

到達目標

地域ブランドの概念や企業ブランドと地域ブランドの相違、地域ブランドと地方創生などを理解できるようになる。
地域ブランドを構築する主体（担い手）や地域ブランドの今後の展望や課題を把握できるようになる。

提出課題

毎回課題の提出によって平常点とする。
中間期、期末期においてはレポート試験を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説します。

評価の基準

平常点（講義内課題）、中間レポート試験、期末レポート試験により総合的に評価する。
1. 授業中：講義内課題等 40%
2. 中間期：レポート試験（理解度確認試験：記述式） 20%
3. 期末期：レポート試験 40%

履修にあたっての注意・助言他

日頃から地域ブランドに関する情報や知識を蓄積することを望みます。
授業計画を参考にして、教科書に沿って授業計画を構成しているため、予習としては教科書を読み、配布教材で学修してから授業に臨むこと。復習は、配布した教材等でキーワードなどの整理を行うこと。

教科書

参考図書

『地域ブランド論』	濱田他編著	同文館出版	2484円	4495645110
-----------	-------	-------	-------	------------

その他

授業ごとに資料（レジュメ）を配布する。

授業計画

1. イントロダクション（授業計画、成績評価他）
2. 地域ブランドの概念的枠組み
3. 地域ブランドと企業ブランド他
4. 地域ブランドによる価値形成
5. 地域ブランド政策について
6. 地域ブランドを動かす外部の環境
7. 新しい文化産業としての地域ブランド
8. 中間レポート試験（オンライン）
9. 地域ブランドと地方創生
10. 地域ブランドとWLB活用
11. 地域ブランドと産学連携
12. 地域ブランドによる観光まちづくり
13. 地域ブランドの価値創造と論議
14. 今後の地域ブランドの展望と課題
15. 期末レポート試験（オンライン）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。
予習・復習、中間レポート試験、定期試験の準備等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。
具体的には、授業前に各自の授業内容について文献やインターネットを検索する等情報収集をしておいてください（2時間）、また授業後に各自の授業内容を復習し、要点をまとめ、疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（2時間）。
具体的には、授業前に各自の授業内容について教科書の該当部分を読み、要点をまとめておいてください（2時間）、授業後に各自の授業内容を復習し、再度要点をまとめ、疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・地域ブランドと地方創生などを理解することで、観光事業の仕組みや経営構造を把握、理解できる。
- ・地域ブランドを構築する主体（担い手）や地域ブランドの今後の展望や課題を把握することで水とヒタリティとコミュニケーション力、課題解決や新たな価値を自ら作り出す想像力と提案力を身につけることができる。
- ・地域ブランドと地方創生などを理解することで、地域ブランドを構築する主体（担い手）や地域ブランドの今後の展望や課題を把握することで、旅行業、交通運輸業などの観光関連産業あるいは自治体や地域の観光団体での就業に必要な知識や技術を修得できる。
- ・地域ブランドと地方創生などを理解することで、地域ブランドを構築する主体（担い手）や地域ブランドの今後の展望や課題を把握することで、旅行業、交通運輸業などの観光関連産業あるいは自治体や地域の観光団体での就業現場において自ら考える力を発揮し、観光地づくりや観光ビジネスに係わる新たな取り組みへの提案を行うことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回、Responを用いた課題を課します。
なお担当者が基礎疾患を有しているため、オンライン授業（オンデマンド授業）になる可能性があります。詳細はその際にお伝えします。

実務経験の有無及び活用

備考

講義中の私語、不必要な携帯電話、メール等は厳禁とします。「講義妨害」にあたるような場合には、他の履修者の権利を守るため退室してもらうことがありますので注意してください。